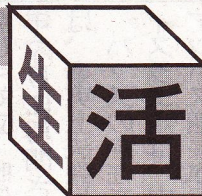


## ◎東京新聞

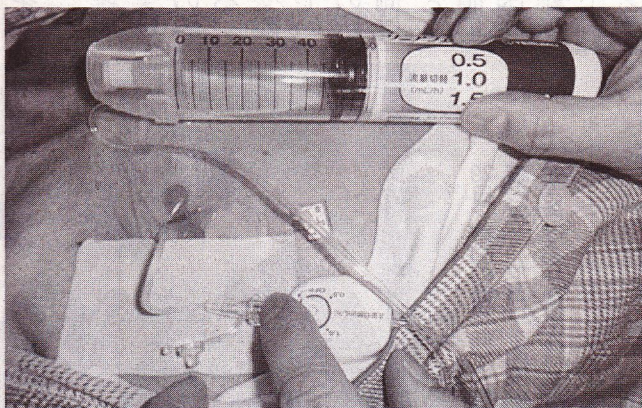

 Dr. 松井英男の  
 在宅医療  
 のカルテ
 

在宅での療養でも、さまざまな医療機器を 사용합니다。例えば、酸素濃縮装置、輸液用ポンプ、人工呼吸器が必要な方もいます。病院では医療機器安全管理責任者や臨床工学技士が協力して保守点検を行います。在宅ではどうしたらよいのでしょうか。

これらの機器の多くは業者が医療機関に貸し、医療機関がそれを患者に貸し出す契約で使います。安全に使うには本人やご家族への説明、日

## 医療機器の使用

## トラブル時の備えを



ポンプを用いて薬液を持続注射する

ごろの保守点検が欠かせません。医師の指示は医師が出し、保守点検は業者に委託する場面が多いようです。ですが、病院から離れたところで使うので、トラブルの時に苦慮することもあります。

腸閉塞を患うSさんは、在宅で体内の静脈に栄養を送る中心静脈栄養

の治療を受けています。輸液ポンプを携帯し、点滴バックの交換も自分でします。

ある日、バックの交換が遅れ、点滴の管に空気が入って警報が鳴ったと連絡を受けました。電話口で応急処置を指示し、自宅に伺いました。幸い空気は途中で止まり、血液の逆流も軽度でしたので、点滴の管を交換してことなきを得ました。

病院ならとっさに対応できますが、在宅では困難なこともあります。特に、Sさんのように一人暮らしだと、点滴を交換しないまま眠ってしまった、などということも起り得るのです。また、機器の多くは電動なので、漏電による感電、停電対策も必要です。

設定の誤りや、機器そのもののトラブルも事故につながります。在宅で使う場合は、使用方法だけでなく、とっさの対応にもある程度慣れておく必要があります。

(川崎高津診療所院長)

|| 次回は五月二十八日掲載